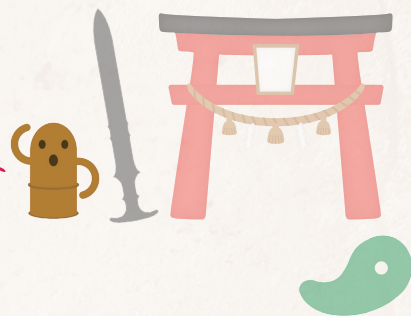


郷土を知る
むかしむかし

昔々の そお市

第57回



住吉神社の歴史に迫る

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

住

吉神社は、薩摩藩主島津氏から篤い崇敬を受け、藩直轄の神社に列するなど由緒ある神社

ですが、神社の歴史を記録した資料が少なく、はっきりとした社史が分からない神社でもありました。

現在、市指定文化財の住吉神社本殿は度重なる自然災害と老朽化のため改修工事が行われています。工事の過程で屋根材を取り外したところ「棟木」および「大瓶束」と呼ばれる部材に墨書が残されていることが確認されました。

墨書は最も古いもので嘉永元年（1848）、直近では昭和32年（1957）に記されており、本殿改修の度に記されていたものです。

嘉永元年の墨書では、嘉永以前の社殿改修などのあらましから始まり、当代藩主島津齊興・斉彬父子の武運長久や国家安泰を願い改修工事を行ったことが記されています。

また藩の御作事方下目附福山平太夫ら関係役人、大工や石工、人足らの名前が列記されています。また各々出身地が付されており、谷山（鹿児島市）や田布施（南さつま市）など、藩内各地の大工が改修に携

わっていたことが分かりました。藩を挙げて改修事業に取り組んだ状況が推察されます。

昭和期には二度改修が行われており、昭和32年の改修では屋根を杉皮から銅板に葺き換え、基礎のコンクリート化、玉垣の拡張などが行われ、現在の社殿の姿に改修されたと思われま

今回の改修工事にあたり、神社建築の専門家に話を伺ったところ、建材に貴重な樟材が使用されており装飾も精緻でたいへん価値のある社殿とのことでした。墨書の内容と合わせて考えますと、薩摩藩において昔から大切にされてきた神社であることがより実感できます。

このような歴史的に貴重な神社が郷土に残ることを誇りに思い、いつまでも大切に守っていききたいものです。

御作事方下目附…藩の工事などを担当

する役職名

玉垣……………神社本殿などの境界

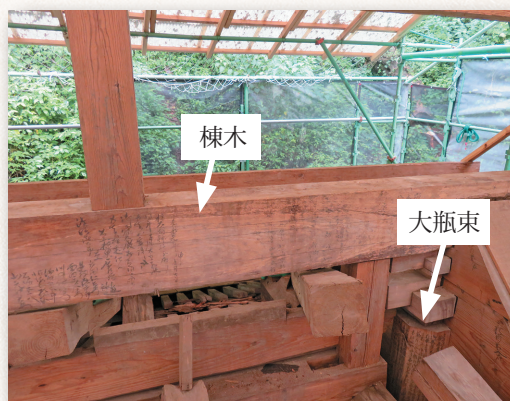
に巡らせた垣根

人足……………資材の運搬など力仕事に従事した労働者

事に従事した労働者



棟木の墨書（嘉永元年）



【アクセス】

住吉神社

曾於市末吉町二之方3995